



研修報告

ダイバーシティ&インクルージョン研修会

「不安な時代をいかに生きるか ～ライフとワークをつなぐ新しい生き方の提案～」

日本公認会計士協会に女性会計士活躍促進協議会が発足して早数年が経ちました。一昨年の組織再編によりダイバーシティ&インクルージョンの一環として女性会計士の活躍促進が語られるようになるとともに、2020年（令和2年）公認会計士試験の合格者に占める女性比率が24.6%（前年23.6%）にまで上昇、「2030年度までに公認会計士試験合格者の女性比率を30%へ上昇させる」というKPI（重要業績評価指標）に向けて大きく舵を切りました。

このような時代の流れを受け、神奈川県会における女性会計士活躍促進チームにおいて



も、あえて「女性」を前面に出さずにダイバーシティ&インクルージョンという「多様性の包含」、すなわち互いの価値観の違いを認め合いながら価値を生み出していくという文脈で研修会を開催できないかと策を練ってまいりました。そして2021年2月16日（火）、日本女子大学の沢真知子先生をお招きしたりモート研修会を開催する運びとなりました。

沢先生は1970年代から80年代にかけてアメリカの大学で研究をなさり、男女雇用機会均等法が施行された直後の1987年に日本に帰国なさいました。アメリカで暮らした日本人として、アメリカを離れた日本人として、またジェンダーという側面からは女性として、「多様性」について多くのご経験をなさっていらっしゃいます。そのご研究の根底にはダイバーシティの本質はどこにあるのかという問いがあり、「人が人として楽しく生きていくために何が必要なのか」、このコロナの時代だからこそ「不安な時代をいかに生きるか」というテーマでご講演

いただきました。

大卒女性が仕事を辞める理由は、育児よりも仕事への不満や行き詰まり感で



あるということがデータから明らかになっていきます。これは世に言う「女性は結婚や出産で辞めるから期待しづらい」という先入観を大きく覆すものでしょう。また離婚率が上昇し、非正規労働が増加するなかで、女性が活躍しづらい負のスパイラルが生じているように感じました。

自らの人生は自らデザインするものです。コロナ禍という不安社会だからこそ、既存の生き方や職業に自分を合わせるのではなく、変化していく環境に適応しながら自分の人生を自らデザインしていくというライフキャリアの考え方を身につけること、またそのために「自己効力感（self-efficacy）」を高める必要があることを教えていただきました。自分を愛おしみ、幸せに生きることの大切さを深く感じ、非常に学術的でありながらも心の底が温まる素晴らしいご講義でした。

（幹事 赤松 育子）

